

第 22 回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時：2025 年 2 月 28 日（金）13 時 30 分～15 時 30 分
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞小林委員、勝治委員、中村委員、服部委員、吉橋委員
＜社内委員＞林社長、水谷副社長、伊原副社長、鍋田副社長、中西専務、片山専務
＜ 関係者 ＞名倉原子力本部 原子力部長 兼 原子力事業総括、佐野総務・広報・地域共生本部 部長、森経営考査室長、大藪経営戦略本部 部長、加藤経営戦略本部 部長（司会）

4. 議事要旨

「前回のアドバイザーボードでのご意見について」、「原子力部門、経営考査室、広報部門の取り組み」、「2025年1月20日開催の原子力安全向上会議での指示・議論」について当社より説明。多岐にわたる議論がなされた。

主な意見は以下のとおり。

○本店に対する国際外部機関からのレビューの結果について、安全確保のためにはトップダウンの力も必要であると同時に、現場がこうしたいというボトムアップの力の両輪が上手く噛み合っ
て機能するため、実施プロセスの本質を踏まえた活動の継続と、振り返りをお願いしたい。

○プラント審査に入り、運転員のモチベーションが上がっていると感じる。安全文化は抽象的なものではあるが、トップのコミットメントや現場の人たちの考え方・行動が重要であり、安全文化をより良いものにしていくには日々の行動や習慣が鍵となる。現場での行動を通じて、安全文化を深め確実に定着させていくことが大切である。

○すでに稼働している原子力発電所の運転員との交流は、新たな発見や視野の広がりを得ることが期待できる。他社の事例を学ぶことは非常に大事であるため、多くの運転員の方々に直接の交流を経験していただきたい。

○長年、発電所の現場責任者を見てきて感じるのは、中部電力を含む多くの電力会社で技術者からリーダーへの切り替えが途上であるということ。通常時はそれでも良いが、突発的、非常事態の際には嫌われる決断も出来るリーダーであるべき。組織はリーダー次第だと思うので、それぞれの階層に応じたリーダーシップを発揮できるようにしていく必要がある。

○リーダーシップは原子力発電所だけではなく、様々な組織で必要であるもの。本店としてリーダーシップのあるべき形を改めて検討するのであれば、誰を対象にするかだけではなく、対象者の下のメンバーにも見える形でプログラム内容を共有することで大きな効果を生むと思う。

○運転員向け講師の育成に当たっては、講師同士で講義内容を相互に確認し、より良い改善策や批判を含めて意見交換をしていただくのが良い。また、講義においてはただ聞くだけではなく、更にモチベーションを上げるためには、受講後アンケートなどについて工夫を行うと良い。

○基準津波の高さに対する防波壁の高さを28メートルとした理由等について、技術的な根拠や専門家意見を踏まえ今後どの様に対応するかといった点を丁寧に説明していくことで外部の理解を得ることが出来る。

○長期間にわたる工事では、設計が良くても施工が悪ければ意味がない。施工が適切に行われているかについて定期的に現地を訪問し、進捗状況を専門家視点にて確認する。閉じた世界で議論しているという形ではなく、可能な限り公開することを検討したほうが良い。

○埼玉での下水管に起因する道路陥没事故を踏まえ、維持管理が機能しているかどうか、その結果何か問題が起きる可能性があるかを十分に考慮する必要がある。原子力発電所の維持管理に関して安全性を前提とした点検や確認などが行われているが、埼玉の事故を踏まえ関心が集まっていることから、維持管理に関しても情報公開していくことを取り入れると良い。

○第7次エネルギー基本計画が公表され、原子力に対する記載も注目されている。一般の方々のエネルギーに対する関心が高まっている中、情報発信の在り方について検討をいただきたいと思う。

以上